

第1回 首里城復興方針に関する有識者懇談会の概要について

- 1 日時:令和2年1月28日(火)10時00分～12時00分 (場所:首里杜館1階 情報展示室)
- 2 出席者:8名 1. 安里 昌利(那覇空港ビルディング(株)／代表取締役社長) 2. 池田 孝之(国立大学法人琉球大学／名誉教授)
3. 下地 芳郎((一財)沖縄観光コンベンションビューロー／会長) 4. 崎山 律子(那覇市文化協会／会長)
5. 佐久本 武((一社)那覇市観光協会／会長) 6. 田名 真之(沖縄県立博物館・美術館／館長)
7. 玉那覇 美佐子(首里振興会／理事長) 8. 波照間 永吉(名桜大学／教授)

3 主な意見

主な議題	主な意見
1 首里城の活用について	<ul style="list-style-type: none">・ 復元後も継世門を開放してこの動線を活用してほしい。継世門付近に多い泡盛産業も首里城と連動してきた産業であり、それらも見て回ってほしい。・ 県営公園エリアと首里城周辺のネットワークの再構築について検討が必要ではないか。・ 収蔵庫や展示室が火災のあった城郭内にあるのはよくないのではないか。複製品は首里城内で、それ以外は周辺施設で展示することでエリア全体の魅力が増えるのではないか。・ 世界的には戦跡・事故跡地などを巡りながら学ぶ「ダークツーリズム」という観光形態がある。第32軍司令部壕についても活用を検討すべきではないか。これを機に利用可能性を明らかにして、県民の声に添えてほしい。・ 観光客や県民が沖縄の歴史文化に触れる機会として、首里城で賓客の接待や定期イベントで組踊を位置づけ、演者の育成やマスコミによる琉球文化発信へつなげられないか。・ 「見る」だけでなく「使う」という視点で検討すべきではないか。歴史的に見ると首里城は政治・外交・文化の拠点であった。現在の行政でも海外の重客接待の際に使う場所として位置づけてみてはどうか。
2 関心を継続させるための取組について	<ul style="list-style-type: none">・ 首里城を学ぶ取組をしてはどうか。プロジェクトマッピングや映像など、見せ方の検討は必要だが、首里杜構想などの学習機会として活用できるのではないか。・ 世界に向けて沖縄の伝統文化を発信している芸術団体のほとんどは任意団である。この機会に県の事業として首里城復元及び琉球文化を発信するための組織を作り、中長期的展望で世界各地で沖縄文化をアピールしてはどうか。・ 首里城周辺には寺院や御獄がたくさんあるので、これらを巡ってもらうのはどうか。首里十二か所巡りの文化もあるので、持続的に実施できる。・ 県民にいかに来てもらうかが大事であり、小学校などで授業や余暇活動での来訪を促すなど首里城を学ぶ具体的な仕組みが必要ではないか。
3 その他	<ul style="list-style-type: none">・ 首里城復興に関するイベントは多いが主催者がバラバラであり横断的に連携できる組織作りはできないか。・ 首里城は御獄の最高峰。沖縄の精神文化を表す場所であり、建物だけでなく空間そのものに意味がある。この精神文化を築いた歴史をどう伝えていかも再建する上で課題となる。・ 国の復元整備は正殿中心だと思うが、県として早く立場をはっきりとさせ、何ができるのか示す必要がある。・ 首里城に対する意識には地域差が大きい。首里城の共通意識を作る必要がある。